



SOCIAL
MASTER
SCHOOL

生涯現役

北九州市
生涯現役
夢追塾

17^{期生}

北九州市
生涯現役
夢追塾



www.facebook.com/yumeijuku/
夢追塾ホームページ www.yumeoi.org/

お問い合わせ先

北九州市生涯現役夢追塾事務室 〒805-0071 北九州市八幡東区東田2丁目5-7(NPO法人 里山を考える会 内)
TEL.093-662-3100 FAX.093-662-3800 Mail:info@yumeoi.org

※「生涯現役夢追塾」は、北九州市より指定管理者の指定を受け、「北九州市社会福祉協議会・里山を考える会 共同事業体」が運営を行っています。

発行日 2023年4月

これからの 夢追塾に 期待すること

この度北九州市長に就任しました、武内和久です。これから、北九州市の産業の力、人の力、街の力を引き出し、皆さんと共に新しい北九州づくりを進めて参りたいと思います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

生涯現役夢追塾は、夢や志のある50歳以上の方々が、これまで培つてこられた技術や経験、能力や人脈等を生かしながら、社会貢献や経済活動などの担い手として「生涯現役」でご活躍いただくことをを目指し、平成18年度に開塾しました。これまでに500名近くの方々が卒塾されていてます。

生涯現役夢追塾
名誉塾長
武内 和久



塾生の皆様は、10ヶ月間のカリキュラムを通して、知識や経験を深めるとともに、塾生同士や講師の先生方、卒塾生とも積極的に意見交換を行われ、幅広いネットワークを構築されています。また、北九州市立大学の学生との取材を通した交流は、新たな視点や刺激を得る好機となっていることと思います。

塾生の皆様には、年齢にかかわりなく、いきいきと様々なことにチャレンジし続ける「生涯現役社会」をリードするアクティブシニアとして、今後も地域での活発な活動を期待しています。

結びに、塾生の皆様の今後ますますのご活躍を祈念するとともに、生涯現役夢追塾を支えていただいている関係の皆様に深く感謝を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

夢追塾のミッショントピック

すでに突入している長寿社会においては、仕事や家庭だけでなく、自分たちの住まう地域社会で市民一人一人が役割を持ち、活動していくことが必要とされています。

特にシニア世代は、本人も気づいていない様々な資源を持つており、それらを地域で活用することが期待されています。

生涯現役夢追塾ではそんなシニア世代がこれまでにない学び方で、自分の資源価値に気づき、同じ志を持つ仲間を作り、地域で夢を実現させることをミッションとしています。

シニア世代がいきいきと夢を実現し、社会に貢献していくことが、長寿社会をよりよい世界に導くことにつながると信じています。



いけもとしんいち
池本 真一さん

未来環境のこと、
一緒に
考えませんか？



インタビュアー／廣吉遙
(北九州市立大学経済学部3年生)

17期生 Interview

生涯現役夢追塾 17期生

北九州市立大学経済学部 松永ゼミ

| | |
|-------|----------|
| 池本 真一 | いけもとしんいち |
| 奥村 廣栄 | おくむらこうえい |
| 木村 裕昭 | きむらひろあき |
| 古城 秀和 | こじょうひでかず |
| 田仲 義孝 | たなかよしたか |
| 築地 政人 | つきじまさと |
| 永原 正章 | ながはらまさあき |
| 宮地 弘行 | みやちひろゆき |
| 山崎 勝幸 | やまさきかつゆき |
| 横井 信行 | よこいのぶゆき |

| | |
|--------|----------|
| 廣吉 遙 | ひろよしはるか |
| 溝口 瑠惟 | みぞぐちるい |
| 宮原 未早 | みやはらみさき |
| 松本 幸夏 | まつもとゆきか |
| 芝崎 美月 | しばさきみづき |
| 渡辺 ひなの | わたなべひなの |
| 香月 莉緒 | かつきりお |
| 中山 茜 | なかやまあかね |
| 池端 真白 | いけはたましろ |
| 寺原 翔吾 | てらばるしようご |

生涯現役夢追塾卒塾生

芳賀 真理子 はがまりこ

横田 大夢 よこたひろむ

池本さんは「私たちの未来環境プロジェクト」という団体の代表を務め、環境保全のための活動やニュースポーツの運営等を行ってきた。今回夢追塾に参加したのは、そのような活動を誰かと共有し、次世代につなげるきっかけにしたいという思いがあつたからだ。チームで共通の目的をもつて活動する中で、最初は意見があつたからだ。チームでもあつたが、最終的には他のメンバーが考えていることが理解できるようになつたのが入塾してよかつたことだという。卒塾後はニュースポー

ーツの活動に入れたいと語る池本さん。ニュースポーツを一つの手段として人々と交流を深め、池本さんがどのような活動をしているのかを知つてもらう。それが海辺のゴミ拾いなどのボランティアに参加するきっかけになり、マイクロプラスチックを始めとした環境問題への意識を高めるところに繋がれば嬉しいと語る。

池本さんは「私たちの未来環境プロジェクト」という団体の代表を務め、環境保全のための活動やニュースポーツの運営等を行ってきた。今回夢追塾に参加したのは、そのような活動を誰かと共有し、次世代につなげるきっかけにしたいとい

う思いがあつたからだ。チームで共通の目的をもつて活動する中で、最初は意見があつたからだ。チームでもあつたが、最終的には他のメンバーが考えていることが理解できるようになつたのが入塾してよかつたことだという。卒塾後はニュースポー

ーツの活動に入れたいと語る池本さん。ニュースポーツを一つの手段として人々と交流を深め、池本さんがどのような活動をしているのかを知つてもらう。それが海辺のゴミ拾いなどのボランティアに参加するきっかけになり、マイクロプラスチックを始めとした環境問題への意識を高めるところに繋がれば嬉しいと語る。

話を聞く中で、環境問題を知るために現状を自分の目で見て確かめることが一番なのだと感じた。ニュース報道などで環境問題が深刻であることは承知しているが、日常生活の中でその深刻さを感じることはない。私も一度ボランティアに参加したいという気持ちになった。また、「良いことも悪いことも経験しておくことが大事」という言葉が印象に残っている。学生のうちに様々なことに関心をもち、経験を積んでおこうと思う。



17期生 Interview

普段はお寺の住職として働く木村さん。お寺での飲み会を企画するなど柔軟な考え方で現在に至るまで様々なコミュニティを運営してきたが、楽しさもある一方で強い繋がりがあることや活動自体への負担に疑問を感じていた。そこから参加者も運営も負担の少ないコミュニティをつくりたいという想いを抱いていたという。入塾してから、後同じチームとなるメンバーの1人について話を聞いてみると、とても共感され活動のコンセプトにしようとした。ゆるく繋がりたいという考え

「つながり」は
負担ではない！

木村 裕昭さん
きむらひろあき



17期生 Interview

広島から移住する前に北九州市にお試し居住する機会があり、その時に夢追塾の存在を知った。塾生のやる気に溢れて活動している姿に心を惹かれ、自分もやつてみたいと思い入塾を決めた。夢追塾では、奥村さんは「洞海湾ダッショ」というグループで洞海湾の環境保全活動を行っている。実際に活動するにあたって、洞海湾の環境とは何か、周りの方から賛同を得てもうにはどうすればよいかなど考えることはたくさんあった。しかし人で行うのではなく、同じ目標を

持った仲間と一緒にになって夢を追い続けられるから頑張れるのだという。夢追塾で、「夢に向かって頑張ろう」、「生涯現役で行こう」と言い合える仲間に出会えたことは財産となつた。これからは「洞海湾ダッショ」での活動を進め、大きなクジラが来るくらい綺麗な洞海湾にすることを目標としている。「夢追塾は卒業してからが始まりであり、これから夢を追い続ける」と活き活きとした表情で語った。

「卒業は終わり
ではない、
始まりだ」

奥村 廣栄さん
おくむらこうえい

から、最初はルール作りや形作りにこだわったがゆるくとはそういうことではないと試行錯誤を重ねた。卒塾後は、寺を活用したこれまでの活動を継続ながらも学んだことを活かしていきたいと語っていた。また、「ゆる場」というゆるい繋がりをもつコミュニティについてもイベントを開催しながら形態や継続させる方法をチームで考えていきたいと話す木村さん。挑戦は続く。

「出会いの中で他人の意見を聞いて、自分の糧にする」。これはインタビューの中で印象に残った木村さんの言葉である。情報にとらわれたり意図地にならず、他人の話を素直に聞く。この姿勢があつたからこそ、今までにない目的を持たないコミュニケーションというアイデアは生まれたのだと思った。私も木村さんのように、人ととのコミュニケーションを通して学ぶ姿勢を持つことで実り多い人生にしていくたいと思う。



インタビュアー／宮原 未早
(北九州市立大学経済学部3年生)

インタビュアー／溝口 瑞惟
(みぞぐちるい
北九州市立大学経済学部3年生)

インタビューの中で、印象に残った言葉がある。「夢は実現しなくとも見続けられる」。実現しない夢かもしれないがそれを追いかけるのが楽しい、と話されていた奥村さんは活気に溢れており、とても魅力的だった。夢は叶う、叶わないが問題ではなく過程が大事であり、自分の行動次第で価値のあるものになるのだと感じた。私も奥村さんのように結果にとらわれるのはなく、楽しさを見出しながら意義ある人生を送りたいと思う。



田仲
義孝
さん

「鉄腕 DASH とのコラボを 目標に」



インタビュアー／芝崎 美月
(北九州市立大学経済学部3年生)

北九州市で生まれ育った田仲さん。昔よりもきれいになつた地元の象徴でもある洞海湾を全国に発信したいと考えていた。知人から紹介された夢追塾について、初めは入塾に積極的でもなかつたが、「洞海湾ダッシュ」を結成し、テレビ番組の鉄腕 DASH とコラボすることで洞海湾の魅力を全国に広められるのではないかと考え、その仲間を集めるために入塾を決意した。夢追塾で4人の同じ思いを共有する仲間ができた。しかし、自分が具体的に何をすればいいか分

からず悩んだという。仲間とたくさん話し合い、出来ることから始めた。この活動を通して、自分たちのプロジェクトをサポートしてくれる人と繋がることを目的としている。「洞海湾ダッシュ」はまだまだメンバーを募集しており、特に若い人たちと一緒にプロジェクトをしたいと期待を寄せている。

活動や思いを生き生きと語る

田仲さんに惹き付けられたインタビューだった。田仲さんは北九州を大事に思つており、話を聞く中で、私も地元である延岡市に何か出来ないかと考えた。それは地域をよく見たり関心を持つたりして初めて気付き得るのだと思

う。「色んなことに挑戦して欲しい」という田仲さんの言葉を胸に、私は目標であるインテリア系の資格を取得するために、勉強したりインテリアに触れる機会を増やしたりしていきたい。

17期生 Interview



古城
秀和
さん

「“やりたい”を 持ち寄れる 場所」

夢や目標があつたわけではなく、先輩に誘われて右も左もわからずに入塾したという古城さん。仕事が忙しくすべての講義にも出るのは難しかつたが、続けてこられたのは仲間の存在が大きかつたからだという。「卒塾後もこの仲間たちと集まるための場所が欲しい」。その想いからチームの目標であつたコミュニティづくりに賛同した。既存のユミニティは目的がはつきりしておりルールも定められているところが多い。そんな中、古城さんたちのチームがこだわったのは「ゆるく」

あること。目的やゴールをあえて決めず、やりたいことを持ち寄れる場所であることだった。「やりたいことはあるけどやり方がわからないという時に、色んな人が集まつて直接相談できるコミュニティがあつたらいいよね」と夢を語る古城さん。きっと彼らのコミュニティには今後も多くの人々が集まり、みんなでそれぞれの“やりたい”を叶えていくことだろう。

インタビューを通して、夢や目標が無くなつて何かにチャレンジしてもよいことに気づかされた。何かを始める際はまず夢や目標を作る必要があると思っていましたが、それは頭でつかひだつたのかもしれない。やりたいことを色々が集まり、みんなでそれぞれの“やりたい”を叶えていくことだろう。古城さんの姿を見て、とにかく始めてみることの大切さを知つた。思いがけず夢が見つかるかもしれない。今後は機会さえあればどんどん色々なことにチャレンジしていくたいと思う。

17期生 Interview



17期生 Interview

普段は北九州市立大学で情報学の教授をされている永原さん。夢追塾を振り返って、「人との出会いが良かった」と語る。入塾したことで、普段関わる機会のない人と交流し、様々な出会いや新しい考え方を得ることができたようだ。夢追塾での活動を通して地域に关心を持つようになり、地域のボランティア活動を調べ参加してみたいと思うようになつたと言ふ。永原さんの今後の夢は、小中学生に向けて「人間力」を育てる授業を行うことだ。永原さんの言う「人間力」

永原 正章さん
ながはらまさあき

「育てろ！人間力 ～多様性のある 未来へ～」



インタビュアー／香月 莉緒
(北九州市立大学経済学部3年生)



17期生 Interview

夢追塾に入ったのは職場の上司に誘われたからだつた。初めはこんなことを学びたい！といった目的があるわけでもなく、ただ付き合いで参加している感じだつたという。しかし、だんだんと前向きになれたのは共に通うメンバーの存在が大きかつた。自分と同じく現役でまだ仕事をしている人が多く、みんなと仕事の話やプライベートの話をするのが面白かった。職場では、どうしても上下関係に縛られてしまうことがある。しかし塾では肩書きは関係がなく、時にはグルー・パワー

クの中で意見がぶつかり合つたり、時には新しい発見があつたりと、他の考え方を学べることがとても新鮮だった。改めてこの夢追塾での活動を振り返ると、今後の目標などが具体的に決まつたわけではないが、すごく満足した時間を過ごすことができた。若い人にも、これからたくさんの人と出会いに恵まれて、とても楽しく満足した時間を過ごすことができる。若い人にも、これからたくさんの人と出会いに恵まれて、とても楽しく満足した時間を過ごすことができる。若い人にも、これからたくさんの人と出会いに恵まれて、とても楽しく満足した時間を過ごすことができる。若い人にも、これからたくさんの人と出会いに恵まれて、とても楽しく満足した時間を過ごすことができる。若い人にも、これからたくさんの人と出会いに恵まれて、とても楽しく満足した時間を過ごすことができる。

「人との 出会いは 人生の財産」

築地 政人さん
つきじまさと



インタビュアー／渡邊ひな
わたなべひな
(北九州市立大学経済学部3年生)

「人間力」とは、リーダーシップやコミュニケーション能力、他人への思いやりなど、この先長い人生においてずっと活きていく力である。受験に合格することがゴールになりつつある現代だからこそ、子供達には「人間力」を身に付け、多様性のある日本の未来をつくりあげてほしいと感じている。永原さんが夢を実現し、数年後その教え子たちが活躍する日本の未来に大いに期待したい。

永原さんへのインタビューを通して、「これから本当に必要な力とは何なのか」と考えさせられた。学問を教え研究を行う立場の永原さんが、明確な正解のない「人間力」を育てる授業を行なうというアンバランスさが非常に面白い。はたして、私は人間力を身に付けられているだろうか？期待されている未来をつくりあげることができるだろうか？これらの人達において必ず生きる人間力を、今からでも身に付け、育てていきたいと思う。



山崎 勝幸さん
やまさきかつゆき

「人生は
巡り合わせ」



インタビュアー／池端 真白
（北九州市立大学経済学部3年生）

17期生 Interview

仕事を退職後、関東から移住をしてきた山崎さん。移住コーディネーターからの紹介で夢追塾を知り、セカンドライフのために人脈を広げようと入塾を決めた。しかし、実際に活動を進めていくと、みんなこれまでの仕事の経験で培った知識や自分なりの考え方があるため、メンバーとの間に考え方や認識のズレが生じて、もどかしい部分があつたという。だが、自分の考えとは違う手法や前例を知ることができ、大きな学びになつたと感じている。今後のやつてみたいことは、「指導者」

だと話す。人に限らず、犬や鷹などを教育し、社会貢献することがセカンドライフを楽しくできることではないかと考えている山崎さん。「人生は巡り合わせで、自分が興味を持ったものに巡り合わせがある」といい、今はまだきつかけがないが、今後どこかできつかけに巡り合えればやつてみたいと話す。きっとどこかで巡り合い、「指導者」を楽しんでいられるであろう山崎さんの未来に胸が膨らむ。



宮地 弘行さん
みやちひろゆき

人と地域を
つなぎ、
未来を描く

北九州の不動産会社に勤めていた宮地さんは、昨年退職することを決め、その後について考えていました。その時、NPO法人里山を考える会の代表に誘われ、入塾を決めた。夢追塾の講義で学んだことは、会員時代に通り学んできたことと重なる部分もあり、整理や復習になつたという。ビジネスでは利害関係を考えた付き合いが多かったが、当初からフラットな人間関係を築くことができたことを嬉しく思っている。こんな人付き合いは高校の同級生以来であり、地域のこ

17期生 Interview

とを真剣に考えている方々と様々な視点で話ができることが何よりも良かった。今後は、空き家の利活用に力を入れ、空き家と住まいや居場所に困っている人をマッチングさせたいと話す宮地さん。グループワークで取り組んだことが、空き家の利活用にも通じることが多いと語る。また、今夏に本を出版することも決まっておりなど、新しいことにチャレンジしつづける宮地さんの今後の活躍が樂しみだ。

とを真剣に考えている方々と様々な視点で話ができることが何よりも良かった。今後は、空き家の利活用に力を入れ、空き家と住まいや居場所に困っている人をマッチングさせたいと話す宮地さん。グループワークで取り組んだことが、空き家の利活用にも通じることが多いと語る。また、今夏に本を出版することも決まっておりなど、新しいことにチャレンジしつづける宮地さんの今後の活躍が樂しみだ。

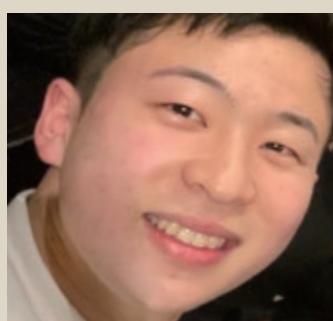
インタビュアー／中山 茜
（北九州市立大学経済学部3年生）

「自分で考え、自分で経験して、それを表層的に重ねていった方が、人生が豊かになる」。宮地さんのこの言葉が強く印象に残っている。結果ばかりを重視するのではなく、自分でしっかり考え行動し、経験を積み重ねていくことが大切だと学んだ。また、その思いを表現し、真剣にこれらの地域や社会について考えている姿は、私の理想としている大人像そのものであった。宮地さんから頂いたこの言葉は、私の人生の糧になる気がする。



「仲間と生きる」

芳賀 真理子さん
はがまりこ



インタビュアー／横田 大夢
(北九州市立大学経済学部3年生)

芳賀さんは夢追塾の卒塾生であり、現在は夢追塾の事務局で働いている。自分自身が塾生だったころ、講義がどのように進められていくのかなどの不安を持ったこともあり、塾生に対するサポートの必要性を感じていた。それもあって、卒塾後に誘われて事務局に入った。事務局では、塾生に安心してもらい、信頼してもらえるような環境づくりを意識して働いている。加えて、全員が互いを尊重し、認め合うことを大切にしているという。それは夢追塾には年齢、職業が異なる

卒塾生 Interview



17期生 Interview

横井さんが長年勤めた会社を退職して感じたこと。それは「明らかに人とのコミュニケーションが減っている」ということだった。そこで出会ったのが自分のしたいことを仲間と探す夢追塾だった。そこで横井さんは北九州生まれ北九州育ちであり、人口流出の課題を抱える地元の魅力をアピールしたいと考えた。夢追塾を通じて出会った仲間は、同じ目標を持っていても出身や認識や考え方は十人十色で、自分が地元をどこまで知っているのか再確認するきっかけになった

という。また、コミュニケーションそのものの重要性も改めて感じることができた。横井さんは卒塾後、夢追塾でできた仲間とともに洞海湾の清掃・PRを行う「洞海湾プロジェクト」の本格的な始動と、自身がリーダーを務めるウォーキングチームの活動を続けていきたいという。また洞海湾での活動以外にも植林のプロジェクトにも参加しており、環境活動へ意欲的な姿勢を見せる。夢は尽きない。

「地元愛と コミュニケーションで 繋がる人の輪」

横井 信行さん
よこい のぶゆき



インタビュアー／寺原 翔吾
(北九州市立大学経済学部3年生)

インタビューで感じたのは、横井さんは「地元のことや、人と話すことが本当に好きなのだ」ということである。考え方の違う人の会話を通じて自分の考えや認識を振り返り、地元の魅力を伝えるためにはどうすれば良いか悩むような葛藤が伝わってきた。仲間とともに議論し、意思を持つ活動に参加し知識や経験を増やそうとする横井さんの姿は魅力的で、目標にするべき「大人」の姿であるように感じた。

様々な人たちが集まっているからだ。だからこそ、事務局のサポートは大切である。塾生間の信頼関係を構築するためのサポートは欠かせないという。こうしたサポートによって、塾生は仲間ができ、同じ志を持ち進んで行くことができる。芳賀さん自身も、塾生時代の仲間と「親と子の2世代がキラキラ笑顔になれる社会」を目指して活動されている。今後も、同じ仲間とこの活動を続けたいという。

人を支えることによって得られるもの。支え合うことによって得られるもの。芳賀さんの場合、仲間を得ることができた。人それぞれ、得られるものは違うかもしれないがそれを大事にしなければいけないと感じた。自分たちは、学生生活の半分以上をコロナ禍で過ごし、人と関わる機会が極端に少なかつた。友達ができづらかったことも事実である。だからこそ、今いる友達を大事にして、悔いのない学生生活にしたい。

PROJECT INTRODUCTION

17期プロジェクト紹介

「チームゆる場」チーム

| | |
|---|---|
| チームメンバー | 木村裕昭、古城秀和、築地政人、永原正章、宮地弘行 コーディネーター：村岡純、小田修司 |
| 共有目的 | 黒崎の街にかかる人がゆるやかにつながってみんなが幸せになるために、地域の街づくり団体、永原ゼミ生、市役所産業政策課と共に善定寺で街を語る会を開催する。 |
| 戦略的ゴール | 2023年6月までに善定寺「ゆる場」の定着を達成する。 |
| オーガナイズ・センテンス | 私たちはゆるやかなつながりで心と体を癒す社会システム（ゆる場）の構築を成し遂げるために、黒崎地域で繋ぎたい想いを持つ人を仲間にし、毎月一回、学習や体験をテーマに誰でも自由に参加できる場（寺子屋）を開催することで、2023年中に「ゆる場」を善定寺に定着させることを達成します。 |
| 2023年2月18日 公開プレゼン 「チームゆる場」 (youtube) |  |

17期プロジェクト紹介

「洞海湾ダッシュ!」チーム

| | |
|---|---|
| チームメンバー | 池本真一、奥村廣栄、田仲義孝、山崎勝幸、横井信行 コーディネーター：雨宮隆、下田良雄 |
| 共有目的 | 洞海湾でクジラが住める環境を維持する事を成し遂げるために、地域の人・若者・専門家・行政・企業の人とともに、洞海湾の活動環境をメディアで紹介すること。 |
| 戦略的ゴール | 洞海湾での環境活動をメディアで紹介する。 |
| オーガナイズ・センテンス | 私たちは洞海湾でクジラが住める環境を維持する事を成し遂げるために、地域の人、若者、専門家、行政、企業の人を仲間にし、洞海湾の良さと問題点を明確にする活動を推進することで、2024年3月までに洞海湾の環境活動をメディアで紹介する事を達成します。 ※2022年12月22日現在 |
| 2023年2月18日 公開プレゼン 「洞海湾ダッシュ!」 (youtube) |  |

内なる関係人口を増やす

松永 裕己
北九州市立大学 マネジメント研究科

少子化と人口減少が止まりません。2022年の出生数はついに80万人を割り込みました。さまざまな対策も講じられていますがなかなか解決は見いだせません。人口減少も同じです。こうした中で、地域の人口＝定住人口の増加を目指すのではなく、人口減少を前提とした地域づくりの動きも見られます。そのひとつが「関係人口」への期待です。総務省によれば、関係人口とは「移住した『定住人口』でもなく、観光に来た『交流人口』でもない、地域と様に関わる人々」とされています。



関係人口に期待が集まっているのは、人口が減少して地域づくりの担い手が不足しているからです。しかし単に人手不足を補うというねらいではあります。地域外の人＝「よそ者」ならではの視点や活力が重要だとされます。よそ者は、地域に生まれ育った人には気づかない発見、新しい知識・感性・考え方、開かれた人脈などをもたらしてくれます。それらが地域に住む人と乗効果をもたらすときに、地域づくりの担い手が増加していくのです。でもよそ者って地域外にしかいないのでしょうか？ 地域とはひとつの組織ではありません。住民、団体、コミュニティなどが集まって地域をつくっています。たとえば同じ地域でも、ある団体の人からすれば他の団体の人はよそ者です。行政職員と企業人の話が通じないことがよくありますが、それは属している組織の文化や価値観が違うよそ者同士だからです。地域の中にもよそ者はたくさんいます。夢追塾はある意味ではよそ者が集まつて学び合う場です。所属してきた会社も違う。年齢も、経験も違う。使う用語も違え、価値観も違う。そういう人たちが集まると一時的に違和感やぶつかり合いも生じます。一方でたくさんの気づきも生まれ、視野や思考が広がります。その中で地域のことを考え、活躍していく人材が創出されます。地域と「関係する」人口の増加ですね。これまでの社会では積極的に地域と関わっている人って意外と少なかつたんじゃないでしょうか。逆に言えば、これから増やす余地があります。下でも、地域の中で地域に関わっていくアクティブ層を増やすことは可能です。「内なる関係人口」の増大です。卒塾生のみなさんが「内なる関係人口」として活躍されることを期待しています。

大学生 夢追塾 第17期生



背中を見る人プロジェクト紹介

北九州市立大学
松永ゼミ生一同
北九州市立大学 経済学部

我々、北九州市立大学経済学部松永ゼミの学生は、「背中を見る人プロジェクト」として、夢追塾に参加しました。時にはみなさんがプロジェクトを作っていく過程を観察し、時には「一对」で対話をし、時には発表に対するフィードバックを行いました。また、課程修了後には、夢追塾で学んだことやこれからの夢について塾生にインタビューを行い、記事を作成しました。こうした活動を通じ、塾生と学生はお互いにプラスの影響を与える関係を築けてきましたように思います。企画し実践することも、大きな学びです。この冊子はそうした学びの結果をまとめたものです。夢追塾の魅力と共に、活動をすぐそばで見てきた学生から見た塾生の姿をお伝えしたいと思います。

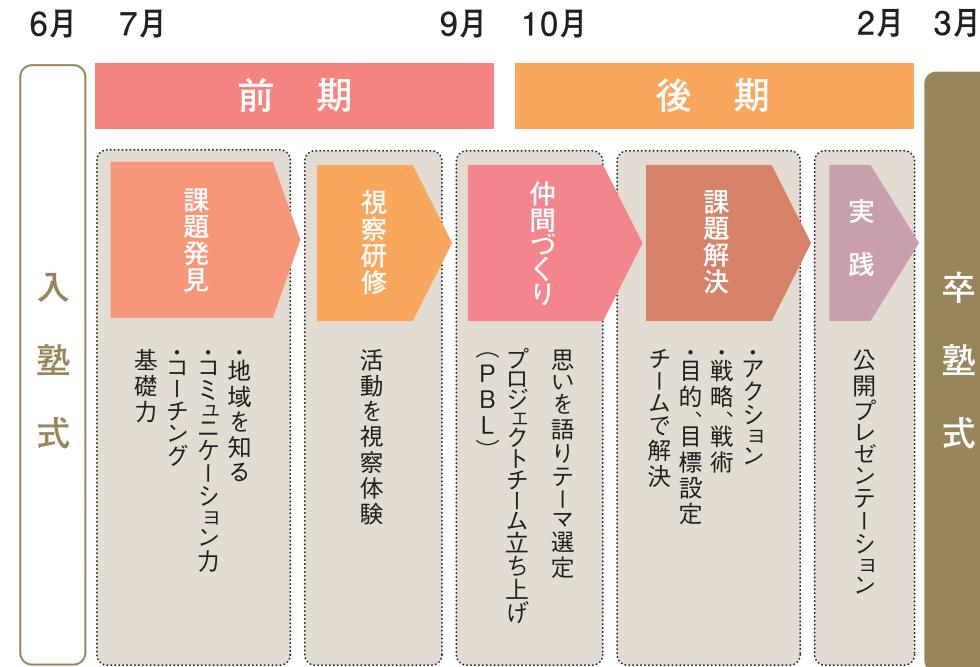
令和4年度 夢追い人 ドリカムイレブン

| 講師(敬称略) | |
|---------|---------------------|
| 楠 稔幸 | 若松TERAKOYAプロジェクト主宰 |
| 田中 雄平 | NPO法人自立生活センターぶるーむ代表 |
| 玉井 行人 | ギラヴァンツ北九州 代表取締役社長 |
| 古賀 厚志 | 松本清張記念館館長 |
| 石橋 孝三 | 光タクシー代表取締役 |
| 櫻木 準一 | 語り部 AKB |
| 甲木 正子 | 西日本新聞社執行役員 |
| 林 沙知枝 | しらゆり会ハミングバーズ |
| 柚須 亮太郎 | 九州電力株式会社執行役員 |
| 小田 修司 | NPO法人夢追いサポートセンター |
| 齋藤 貞之 | 北九州市立大学名誉教授 |



講座動画
(youtube)

年間スケジュール



| | |
|--------------|--|
| 入塾対象者 | 概ね50歳以上で市内に在住する方もしくは、市内に勤務している(していた)方 |
| 受講期間 | 6月～翌年3月 |
| 定 員 | 40名目安(書類審査と面接による選考があります) |
| 受講料 | 年間5万円 |
| 講座会場 | <ul style="list-style-type: none"> ●いきがい活動ステーション(小倉北区魚町) ●八幡西生涯学習総合センター(八幡西区黒崎) ●ユースステーション(八幡西区黒崎) ●アジア太平洋インポートマート(小倉北区浅野) |

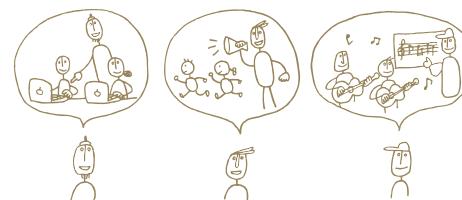
学びのポイント

楽しく、互いに、体験から学ぶ

夢追塾は、楽しく学ぶことをモットーとし、熱い思いを持った仲間と交流を深める場でもあります。仲間と楽しみながら取り組むことで学びが深まる。ここが魅力です。

POINT 1 自分を活かしてお役に立つ

これまで職場や趣味で培ってきた**知識や経験**、ネットワークなどの能力を地域で役立てます。

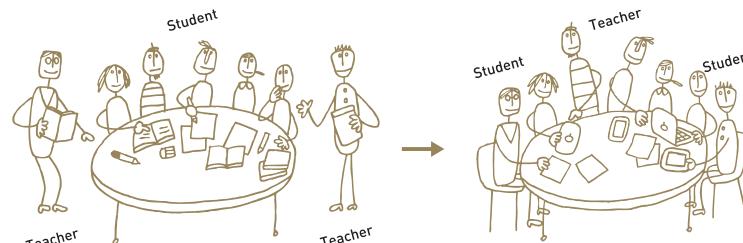


POINT 2 体験から学ぶ

現場におもむいて調査・研究を行ったり、地域で活躍している団体の活動を実際に**体験**しながら学びます。

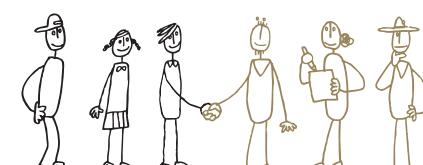


POINT 3 塾生同士で学び合う



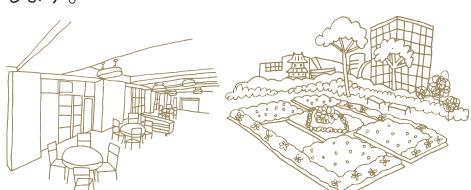
POINT 4 若者と互いに学び合う

大学生などの**多世代**にも関わってもらい、違う感性から得られる「気づき」や「発見」を大事にします。



POINT 5 まち全体がキャンパス

夢追塾は**まち全体**が学び舎です。北九州市内のさまざまな施設を活用し、多様な学びの場を提供します。



夢追塾 卒塾生

楽しみながら地域で活躍!!



下川和士さん
夢追塾1期生

NPO法人で
北九州地域の
陸上競技発展を
サポート

夢追塾で、北九州市で走
高跳びのアジア大会日本代
表だった自分にできる恩返
しを学びました。現在は
NPO法人北実会で北九
州の陸上競技発展のために
活動しています。



宮尾節子さん
夢追塾3期生

「よさこい夢追いたい」
を結成し被災地や
デイサービスに慰問

塾の仲間と結成した「よさ
こい夢追いたい」では、被災地
やデイサービス等慰問に訪れ
てみなさんと一緒に楽しんでい
ます。自分のスキルや経験をい
かして夢を実現中です。



萩原詩子さん
夢追塾11期生

北九州で
学び、
魅力を発信

東京から移住して夢追塾
に入塾しました。北九州で様
々な経験を持つ者同士が対
等に話し合えたことはとても
良い体験でした。現在は「チー
ムレインボー」で北九州の魅力
を発信しています。



常光孝一さん
夢追塾2期生

仲間と共に次々に
イベントを企画
自分のやりたいことは何だろ
うかと入塾しました。塾の仲間
とは、ウォーキング大会・はしご
酒大会・笑いヨガクラブ・80歳
からの合唱団北九州等を企画
運営しながら生涯現役で
楽しんでいます。

自分の中間で、何だろ
うかと入塾しました。塾の仲間
とは、ウォーキング大会・はしご
酒大会・笑いヨガクラブ・80歳
からの合唱団北九州等を企画
運営しながら生涯現役で
楽しんでいます。



楠稔幸さん
夢追塾9期生

誰もが気軽に
立ち寄れる
縁側カフェを
オープ

塾で学んだ「仲間づくり」の方
法で「若松TERAKOYA
プロジェクト」を立ち上げました。
地域の方に仲間になつてもらい、
大きなチカラをいただきながら
安心して暮らせるまちづくりを
目指しています。



伊藤宏夫さん
夢追塾12期生

留学生との交流を
深めるプロジェクトを
立ち上げ

専門学校で留学生を指導し
ていた経験から、留学生にとつて
も住み良いまちにしたい思いが
ありました。「愛しとるつちや北
九州」チームでは留学生と市民
の交流の場を提供しています。

